

⑤常楽寺



鎌倉幕府三代執権北条泰時が妻の母の菩提をとむらうためその墓のある場所に建てた「栗船御堂」を前身として、仁治三年(1242)当地に泰時が葬られたとき、常楽寺と改められた。寺号は泰時の法名「常楽寺殿」にちなんでつけられた。かつてはもっと大きな寺だったが、度重なる兵火や地震により荒れはてたるも、江戸時代の末期には竜淵和尚によって再興されたが、大正十二年の関東大震災により仏殿と文殊堂を残して大破。本堂と庫裡は震災後再建された。本尊は阿弥陀如来像。本尊の脇侍の観音菩薩、勢至菩薩像、室町時代作と伝わる蘭溪道隆像が安置されている。文殊堂は明治のはじめに鎌倉扇ヶ谷の英勝寺から移築したもので、道隆が来日する際、宋から持ってきたという県重要文化財文殊菩薩像をまつている。この文殊菩薩像は毎年1月25日に催される文殊祭のとき開帳される。なお、常楽寺の銅鐘は時頼が祖父泰時を追善して制作させたもので、建長寺、円覚寺の鐘とともに鎌倉三大名鐘の一とされ、国の重要文化財に指定されているが、現在は鎌倉国宝館に出陳されている。

⑦水堰橋(せいしくばし)

柏尾川の支流小袋谷川に架かる橋で橋柱には「せみ志くはし」と書かれている。鎌倉に幕府を開いた源頼朝の軍勢が出入りのとき必ず当地で勢揃いし、隊伍を組んで進みはじめたという。

このため「勢揃い橋」と呼ばれ、それがいつしか「せいしくばし」になったともいうが、正確なことはわかっていない。鎌倉街道の分かれる位置にあり、小袋谷側の橋のたもとに観音を彫った「享保十二年」の道標が立っており「右とつか・左藤さお」と方向を示している。



木曾義高のおはなし (MAP-⑤)

源頼朝のいとこ木曾義仲の長男志水冠者義高の墓といわれ、かつては大船東方の栄町公園あたりにあった木曾塚を移したものだ。木曾義仲は平氏を討つため木曾に挙兵し、源氏の直系である頼朝に恭順の意を表すため元服したばかりの長男義高を頼朝の娘大姫と婚約させて鎌倉に預けた。事実上の人質である。ところが先に京に入った義仲と頼朝の間で権力闘争が始まり、結果として頼朝が義仲を討つことになった。こうなると頼朝は義高を生かしておくわけにはいかない。婚約者の命が危ないとさつた大姫は、母の政子に相談した。政子は義高に大姫の衣装を着せて逃がそうとした。それを知った頼朝は義高を討つ口実ができたこと喜び堀親家に命じて後を追わせた。義高は武蔵国入間川の河原まで逃げたが、元暦元年(1184)、ついに捕らわれて首を討たれた。義高の首は首実検のあと塚を築いて葬られた。



⑥離山の地蔵尊さん

昔、冬のある寒い夜、提灯を片手に地蔵山のふもとの道を大三という村人が歩いていた。「オーイ」と、どこかで誰か地蔵山から呼ぶ声がする。「だれだね」大三が地蔵山に向かって聞き返すと、こんな返事が返ってきた。「わしゃあ石の地蔵じゃよ。何百年もの間ここにおるんじゃが、常々悩みを聞いたり願いをかなえたりしてやりたいと思うとつた。出来れば道端に移してもらいたい」。村に帰ってそのことを話すと「蜂に目を刺されたカラスがお地蔵さまに泣きついているのを見たことがある。頼まれたお地蔵さまは『それはつらからう、こっちにきなさい』」そうして目を見つめると、たちまち治ってしもうた」とするとまた別の村人が言った。「あの狐はそれをみていだな。人間に化けて出て、街道に行く人々に、離山のお地蔵さんは目のお医者だといふらしてあって、いまでは知らない者はいない」。お地蔵さまがそうまでおっしゃるならと村人たちはお地蔵さまを道端に移したという。



Take Free 江の島・鎌倉モノさんぽ

沿線歩きで、楽しさ発見!



大船
富士見町
湘南町屋
湘南深沢
西鎌倉
片瀬山
目白山下
湘南江の島

栗船ウォーク

昔は栗積船が入りしていたと伝えられ、「栗船」と書いて「おあひな」と読んでいわれています。

大船駅～富士見町駅

【全コース：約5km・約3時間(※移動時間)】

大船駅 ▶ 仲通り商店街 ▶ 松竹大船撮影所跡地 ▶ 鎌倉女子大学・鎌倉芸術館 ▶ 大長寺 ▶ 岩瀬下関防災公園(上総掘り井戸) ▶ 西念寺 ▶ 熊野神社 ▶ 多門院 ▶ 常楽寺・木曾義高の墓 ▶ 離山地蔵尊 ▶ 殿島神社 ▶ 成福寺 ▶ 水堰橋 ▶ 富士見町駅

これ知ってる?



食用蛙の養殖場跡 (MAP-③)

大正の初め頃、渡瀬庄三郎という方がアメリカへ渡り、食用蛙の料理を食べておいしかったので日本で養殖をしようと考えた。食用蛙を雄雌取り寄せて繁殖に成功。河野卯三郎さんが岩瀬に食用蛙の養殖場を作りました。餌に困りましたがアメリカではザリガニを餌にしていることが分かり、これも輸入して増やしました。これが養殖場から逃げ出して日本各地に広がっていきました。疲弊した農村に活力を! と始めた事業でしたが蛙料理に馴染めない日本では普及はしませんでした。跡地は現在、岩瀬下関防災公園になっています。



江の島・鎌倉モノさんぽ 大船駅～富士見町駅

発行：湘南モノレール株式会社 〒248-0022 鎌倉市常盤18
TEL.0467-45-3181 URL <http://www.shonan-monorail.co.jp>

©湘南モノレール

①松竹大船撮影所跡地

鎌倉女子大とイトーヨーカドーとの間の道は砂押川プロムナードと呼ばれる通り。シネマワールド閉館後、ここがわずかに松竹大船撮影所を偲ぶ場所となっている。映画「男はつらいよ」で実際に使用された「くるまや」のセットは大船撮影所から葛飾柴又の「寅さん記念館」に移設されています。



②大長寺 (たいちょうじ)

かつては大頂寺を称し、玉縄城主北条綱成が、天文十七年(1548)、主君北条氏綱の娘である亡き妻の供養と平和を祈願して創建した浄土宗の寺。開山上人は感奮存貞。本尊は阿弥陀三尊。四代目住職暁誉滅栄は天正十八年(1590)豊臣秀吉が小田原を包囲した時、徳川家康に頼まれ難攻不落と言われた玉縄城の守将北条氏勝を説いて降伏開城させたことで知られる。小田原北条氏滅亡後、將軍家の保護を受け高い格式を誇った。宝蔵には家康とその父松平広忠の位牌、家康の像が安置されている。また、寺の石段は家康が駕籠に乗って登ったといい、そのとき家康が「山号が亀鏡山なら、おそらく僧は大長寿だろう」といったため、大長寺と寺号を改めた。別に大長寿寺とも呼ばれた。裏山の基地は展望がよく、その一面に綱成夫人の墓や北条一族のものや伝わる墓が立っている。



③岩瀬下関防災公園

園内の北端部には2002年に上総掘りで掘られた井戸と池が存在する。井戸から湧く水は自由に使い、地域住民が飲料水をくみに来ている。この公園はかつては鎌倉食用蛙養殖場で、食用蛙(ウシガエル)の養殖場であった。

栗船ウォーク

昔「栗船」。今は「大船」を歩いてみよう!

松竹撮影所を訪れる俳優さんらが利用したことで知られるレストラン。

鎌倉市「景観重要建築物等」に指定されている、昭和初期の住宅。



岩瀬下関防災公園 (鎌倉食用蛙養殖場跡)

岩屋には木屋正定院の像(くびぬけ木像)がまつられている。

室町時代の半ば甘粕氏が創建したとされる

小袋谷の鎮守で祭神は橘姫命、市杵島姫命など。

裏山は亀甲山(かめがし)と呼ばれる。かつて天台宗の寺院だったが、貞永元年(1232)浄土真宗に改められる。

④多門院 本尊は毘沙門天 (たもんいん)

鎌倉山の内瓜ヶ谷にあった観蓮寺が永享の乱(1438~1439)で焼失したため、甘粕氏が南介僧都を開山上人とし、文明年間(1469~1487)中当地に移転し再建したもの。この際、多門院と改められた。ほかに荒彫りながら見事な出来栄の牛頭天王木像がある。これはかつて山ノ内天王社の祭神としてまつられていたものという。また未公開ながら寿永二年(1183)の後白河院の院宣、建長二年(1250)の後嵯峨院の院宣、貞和二年(1346)の光厳院の院宣の三つが所蔵されている。なお、境内には「とげぬき地蔵」の名で知られる地藏尊がある。



富士見町駅

台ぶどう公園

水堰橋 コンビニ

神明神社

湘南モレール 大船駅

大船仲通り商店街

山蒼稲荷神社

レストラン ミカサ

イトーヨーカドー

松竹大船撮影所跡地

鎌倉女子大学

鎌倉芸術館

小池邸

ろうきん

西友

木曾義高の墓

むくどり公園

常楽寺

離山地蔵尊

鎌倉大船三局

大船中学校

常楽寺

熊野神社

多門院(とげぬき地蔵)

岩瀬中学校

長久保橋

西念寺

大長寺

JR 大船駅